

フロンティアスクール実践研究計画書

白鷹町立東中学校

校長氏名
所在地

齋藤

和男

〒 992-0832

山形県西置賜郡白鷹町荒砥乙 1158

TEL 0 2 3 8 - 8 5 - 5 5 3 1

	1 年	2 年	3 年	特殊学級	合 計	教員数
学級数	4	3	3	2	1 2	
生徒数	1 2 3	1 1 0	9 1	2	3 2 6	2 4

1 研究主題

『 個 が 生 き る 授 業 の 創 造 』
～基礎・基本の定着や発展的な力の育成に結びつく評価と指導の工夫～

2 研究の内容、方法

(1) 生徒の学力の実態と主題設定の趣旨

標準学力テスト（2・3年生については15年度末に実施、1年生については16年度当初に実施）の結果、各学年とも全国平均並みから全国平均よりやや高い学力であることがわかった。3年生については、昨年度数学科でコース制授業、英語科でT T授業を実施した結果、前年度よりも数ポイント成績を向上させることができた。

本校は、平成14～16年度の3か年にわたり、文部科学省の「学力向上フロンティアスクール」の指定を受け、昨年度は「『個を生かす授業の創造』～評価活動を生かし基礎・基本を定着させる指導の工夫～」という主題のもと、研究を進めた。その結果、2・3年数学科のコース制授業や2年英語科のT T授業において個に応じた学習を展開することができ、生徒の学習意欲を高めたり学習が遅れがちな生徒の理解度を向上させることができた。また他教科においても、1教時毎や小単元・単元毎に評価を行い、その結果をふまえて補充指導等を行う実践を進めてきた。さらに、学習プリント・学習カード等、個に応じた指導のための教材の工夫もみられた。

本年度は、生徒一人一人がさらに生きるような学習を目指し、また、基礎・基本に加えて発展的な力の育成もねらっていきたいと考え「個を生かす」から「個が生きる」に改め、上記主題を設定した。

(2) めざす生徒像

目標に対する自分の到達度がわかり、自分の力に合った学習課題を見つけ、その課題に向かって意欲的に学習を進める生徒

(3) 研究の仮説

次のような指導の工夫を行っていけば、意欲的に学習が展開されるとともに、基礎・基本の定着さらには発展的な思考力・表現力の育成が図れるのではないかと。

- ① 評価を行い、その結果をもとにして個に応じた指導を行う。
- ② 生徒一人一人の実態に即し、個に応じた指導に結びつく教材を開発・工夫する。
- ③ 少人数授業やT T授業等の授業形態で、個に応じた指導をきめ細かに行う。

(4) 研究の視点

- ①-a 学習指導案の中に1教時毎の評価規準と評価方法を明記した指導計画を記載し、単元全体の中で計画的に個に応じた学習への展開を図る。
 - ①-b 1時間毎の形成的評価や、小単元・単元毎に目標の到達度を把握できるような評価を行い、それをもとに補充・発展・深化等の個に応じた学習への展開を図る。
 - ②-a 生徒個々の力や興味関心に応じて個別に課題を設定できるようにしたり、活用する教材教具を選択できるようにする。
 - ②-b 課題を自力解決するための補助教材を開発・工夫する。
 - ②-c 小単元テスト・単元テスト後の補充教材・発展教材を作成・活用する。
 - ③ 数学科と英語科においては、次のような指導方法・指導体制の工夫を行う。
- <数学科>
第3学年3クラスについては毎時間コース制（習熟度別）の授業を行う。
第2学年3クラスについては毎時間T T授業を行う。
- <英語科>
第3学年3クラスについては毎時間少人数指導の授業を行う。
第2学年3クラスについては毎時間T T授業を行う。

3 研究計画

(◎…教育事務所＋教育委員会、○…教育委員会)

月日(曜)	研究内容	授 業 研 究	その他の研究	指導主事要請
5/6(水)	全体研修(今年度の学校研究の内容と方向性)			
6/3(木)	授業研究会	技術(2-) 高橋教諭	教科部会	◎
		数学A(3-) 細谷教諭		
		数学B(3-) 佐藤吉教諭		
6/11(金)			町研英語科部会授業研 3年英語 八木教諭 ・槇教諭	
9月末日まで	『学校研究のまとめ』用原稿の提出			
10/14(木)	授業研究会	社会(2-) 鈴木慎教諭	教科部会	○
		国語(1-) 竹田教諭		
10/26(火)			現職算数数学科部会授 業研2年数学 小林邦教諭	
11/18(木)	フロンティ アスクール 公開授業研 究会&講演 会	数学A(3-) 細谷教諭	教科部会	◎
		数学B(3-) 佐藤吉教諭		
		英語(3-) 槇 教諭		
		英語(3-) 八木教諭		
		体育(-) 小松(・横澤)教諭		
12/	学校研究の反省			
1/	次年度の学校研究の指針			

- 1教時毎の評価活動の工夫(教師による評価と生徒による自己評価)
- 単元テストの実施とその後の補充・発展学習への展開
- 各教科において、生徒の興味・関心により選択できるような教材の開発
- 数学科のコース制(習熟度別)授業、T T授業の実施
- 英語科の少人数授業、T T授業の実施

4 研究の評価

- (1) 評価の視点
 - 学習内容の定着を標準化されたテスト等で評価する。
 - アンケート調査を行い、指導の改善が進んでいるかどうかを評価する。
- (2) 評価の方法
 - 標準学力テスト(NRT)の結果を分析し評価する。
 - 各教科毎、単元テストを実施し、その結果を蓄積・分析し、実証的に評価する。
 - 教師、生徒、保護者を対象に学習に関するアンケート調査を行い、結果を蓄積・分析し評価する。